

第2 実践事例（家庭分野）

事例5-1 学習過程での効果的なICTの活用を通して幼児への関心を高める事例

○学年 第3学年

○主な領域 内容「A 家族・家庭生活」(2) ア(ア)(イ) イ 幼児の生活と家族

○事例のポイント

- ①オンライン授業において、地域の方と双方向のやりとりを行うことで、自らの課題に対して専門的な内容を見聞きできるようにする。
- ②ゲストティーチャーや地域の人たちとの対話を通じて、それぞれの課題への解決方法を見出し、今後の生き方に生かすことができるようにする。
- ③ICT端末を用いて、考えを整理して伝え合うことで、即時に多様な意見に触れ、思考力、表現力を培い、多角的な見方・考え方を働かせることができるようにする。

1 題材名 「幼児の生活と家族」 内容A(2)ア(ア)(イ)イ 第3学年

2 題材について

(1) 生徒について（略）

(2) 題材について

世界の中でも少子化が進む日本の背景には、核家族化や都市化による養育力の低下や、支援や知恵が得られにくい環境下での子育て負担の大きき等が挙げられ、様々な問題が指摘されている。その中で、生徒は幼児と触れ合える環境は少なく、触れ合ってきた経験も乏しいため、幼児と関わることへの苦手意識は高いことがうかがえる。「幼児の特徴」や「幼児が育つ環境としての家族の役割」を知る学習を進めていくと、子育ては思うようにいかないということや、生活習慣を身に付けさせる際には苦労があるということを知り、さらに、幼児との関わりに対して後ろ向きに捉えるようになってしまうこともある。

そのような中で、幼児の生活や遊びを観察したり、一緒に遊んだりするなどの実践的・体験的な活動は、生徒それぞれにとって新たな発見の場となる。幼児と関わることで、幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方等、実際の姿を知り、幼児の愛らしさに気づき、既習事項についても実感を伴って理解できるようになる。

しかし、近年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、幼児との触れ合い活動の実施が困難となった。既存の視覚教材を用いて幼児の様子を観察する授業を展開することも良いが、双方向でのやり取りができず、物足りなさを感じる。そこで、オンラインを利用して、生徒と園児が双方向に関わることができる学習活動が展開できれば、直接的に触れ合えなくとも、幼児の純粋さや可愛らしさなどに触れ、幼児に対するプラスのイメージをもつことにもつながり、生徒自身が将来を展望するきっかけにもなると考える。

編P126 指導計画
作成の留意事項(4)(8)

(3) 指導について

幼児の生活と家族についての基礎的・基本的な知識を活用し、幼児とのよりよい関わりを考え工夫することができるように、地域の幼稚園・保育所・認定こども園などと連携し、あらかじめ撮影した幼児の園生活の様子を視聴する活動を行っていく。幼児の活動の様子を観察する学習活動により、それぞれの発達の違いや、生活の特徴に気付けるようにする。

また、幼児とのオンラインを利用した触れ合い活動に向けて、個々に課題を設定し、幼児の興味・関心に応じた関わり方を検討することで、幼児との充実した関わりになるようにする。直接的な触れ合い活動でなくとも、オンラインでの双方向の関わりが、幼児理解をさらに深めることにつながり、生徒それぞれに充実感を味わわせると共に、幼児と触れ合うことの楽しさに気付くようにする。また、触れ合い活動後の振り返りでは、ICT端末を用いて、自らの考えを伝えあう活動を通して多様な意見に触れさせ、多角的な見方・考え方を働かせることができるようにする。その際、幼児に適切に関わるのが、幼児の成長にとって必要なことであり、周囲の大人の役割の重要性に気付けるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 幼児の観察や触れ合い活動での実践的・体験的な活動を通して、幼児との関わり方について理解する。
〈知識及び技能〉
- (2) 幼児の心身の発達などを踏まえて、幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) よりよい生活の実現に向けて幼児との関わりについて課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の発達と生活の特徴が分かり、幼児が育つ環境としての家族の役割について理解している。 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。	幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて幼児との関わりについて課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 題材の指導と評価の計画（9時間扱い）

小題材	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の発達と生活	1 ・ 2	○幼児の発達と生活の特徴について理解することができる。 ・体の発達には順序性や方向性とともに関人差があることを知り、幼児の体の発達の特徴について考える。 ・幼児の心の発達（言語、認知、情緒、社会性等）について考える。	①幼児の身体の発達と、生活の特徴について理解している。 ・ワークシート ・定期テスト		

幼児が育つ環境と家族	3	<p>○幼児が育つ環境としての家族の役割について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児のよりよい生活習慣（基本的な生活習慣、社会的な生活習慣）の身に付け方の過程について、家族や周囲の人たちの役割を考える。 	<p>②幼児が育つ環境としての家族の役割について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・定期テスト 		
遊びの意義	4	<p>○幼児にとっての遊びの意義について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる触れ合う活動に適した遊びを考える。 	<p>③幼児にとっての遊びの意義について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・定期テスト 		
幼児との関わりに向けて	5	<p>○幼児の観察を通して、幼児との関わり方について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に録画させてもらった幼児の園生活の映像を見る。 ・幼児と関わる際のポイントについて学ぶ。 	<p>④幼児との関わり方について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・定期テスト 	<p>①幼児との関わり方について問題を見出して課題を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	<p>①幼児との関わりについて課題解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察
	6	<p>○幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達の段階を考慮して、オンラインでも幼児と楽しい時間を過ごすために、課題を設定する。 ・課題の解決のために、幼児と一緒にオンラインで行う遊び等について適した内容を考える。 		<p>②幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について工夫をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 	

編 P126 指導計画作成の留意事項(4)

編 P125 指導計画作成の留意事項(2)

	7	<p>○幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について解決策を構想し、実践を評価したり改善したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン活動を想定して、遊び等の内容を精査し、働きかけを工夫する。 ・幼児の様子を踏まえて、幼児への声掛け等の工夫を考える。 ・オンライン活動の一連の流れを確認する。 		<p>③幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について課題の解決策を構想し、実践を評価したり改善したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 	<p>編 P 125 指導計画作成の留意事項(2)</p>
本時	8	<p>○幼児の心身の発達などを踏まえて幼児との関わり方について、考察したことを論理的に表現し、課題解決に主体的に取り組んでいる。</p> <p>オンライン活動による触れ合う活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために、積極的に幼児と関わる。 	<p>編 P 126 指導計画作成の留意事項(4)</p>	<p>④幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 	<p>②幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察
触れ合い活動を振り返ろう	9	<p>○幼児との関わり方について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや学んだことをレポートにまとめ、発表し合い、互いのアドバイスを生かして今後の取組についてまとめる。 	<p>編 P 125 指導計画作成の留意事項(2)</p>		<p>③幼児との関わりについて、改善し、生活を工夫し想像し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察

6 本時の学習指導（本時 8 / 9）

(1) 目標

- ・ 幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現する。
 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとする。
 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 展開

表中の★☆☆は、6班編成で活動を分担して実施する際の班分けの例

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
3	1 前時の確認をする。	・ 幼児がオンライン上でも聞き取りやすいように、速度・声量・抑揚を意識して話すことなど、前時で学んだことを振り返らせる。
	2 本時の学習課題の確認をし、学習の見通しをもつ。 —— オンラインを接続し、園児と対面する ——	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題 ～幼児とのオンライン触れ合い活動～ 幼児との関わりから、それぞれの課題を解決しよう </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 編P125 指導計画 作成の留意事項(2) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接続確認を行う。（園側との接続の不具合がないかチェックし、すぐに対応できるようにする。） <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> ※接続が上手くいかない場合は、電話等で園側に確認する必要がある。 ※できれば、授業開始前に園側と接続の確認を済ませておき、開始時間になったら、音声や画像をオンにする流れがよい。 </div>
3	3 幼児と対面する。（はじめの会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児と対面後、挨拶を行う。また、本時の目的を伝えるなど、中学生・幼児共に本時への期待感をもたせる。（司会や号令も生徒が担当する。） ・ 生徒の動きに合わせて画面に映る位置等を調整する。 ・ 生徒の音声が生徒側の事情で伝わらない時などは、該当生徒に対して声の大きさや話す速度等の指示を出し、改善させる。
4	4 簡単な手遊び等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の緊張感を和らげて、相互の関わりがしやすくなるように、挨拶のあとにクイズや手遊びなど、簡単な活動を幼児と一緒にを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事例のポイント① 生徒と幼児がオンライン上で双方向のやりとりを行うことで、自らの課題に対して向き合うことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ やりとりがスムーズにいかない場合には、適宜助言を行い、活動がうまく進むようにする。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> ※前時にリハーサルを行い、一連の流れを確認しておくとうよい。 ※用具が必要な場合は、すぐに使用できる状態にしておく。 </div> <p>例1) 時間が必要な活動を含み、班ごとに均等に時間が分けられない場合 ★1班「はじまるよ はじまるよ」</p> <p>例2) 持ち時間を設定し、その時間内で関わる活動を班ごとに考えて行う場合 ☆代表の生徒「キャベツの中から」</p>

25 5 幼児とのレクリエーションをする。

【参考】その他の手遊び例

「キャベツのなかから」「さかながはねて」「やさいのうた」
「おおきなくりのきのしたで」「とんとんとんとんひげじいさん」
「いとまき」「てをたたきましょう」「アンパンマン」
「おべんとうばこのうた」「ばんやさんにおかいもの」

・中学生が指示を出して、ゲームを行わせることで、生徒自身の課題解決のための工夫をして実践する機会にする。

例1) 時間が必要な活動を含み、班ごとに均等に時間が分けられない場合
★2班「あとだしじゃんけん(4分)」→★3班「きのこ(4分)」
★4・5班「もうじゅうがりにいこうよ(15分)」⇒★6班(音楽を流しながら)園児に整列を促す(「こいぬのマーチ」等、実際にピアノ等で生徒が弾きながら、他生徒が整列を促す声掛けをする)(2分)

《目安時間は説明等を含む》

例2) 持ち時間を設定し、その時間内で関わる活動を班ごとに考えて行う場合(6班編成の場合) 1班4分ずつの活動を考える。

☆1班「鳴き声あてクイズ」→☆2班「シルエットクイズ」→☆3班「ピコピコテレパシー」→☆4班「おちたおちた」→☆5班「おにのパンツ」→☆6班「みんなで体操しよう!エビカニクス」⇒☆代表の生徒 園児に整列を促す

【参考】その他の活動例

「まねっこゲーム」「ジェスチャーゲーム」「○×クイズ」
「早口言葉」「スリーヒントクイズ」「からだじゃんけん」
「数拍手ゲーム」「一緒に歌をうたう」「“パプリカ”ダンス」
「サイレントゲーム(口の動きだけで伝える単語ゲーム)」

※園側の準備は不要とし、ケガにつながりにくい遊びを行う。また、遊びの説明や指示等は基本的に生徒側で出すようにして、なるべく園側の負担にならない計画にする。

※中学生は、自分の出番ではない時も、幼児をよく観察したり、一緒に手遊びやゲームに加わったりすることで、よい雰囲気で行えるようにする。

※オンライン上の雑音をなるべく生まないように静かにする等、注意させる。

◇幼児との関わり方についての課題解決に向けた一連の活動について考察したことを論理的に表現している。

【思考・判断・表現】(ワークシート・行動観察)

おおむね満足できる状況(B)	幼児との関わり方について、自己の課題解決に向けた一連の活動について考察したことをワークシートに適切に記入している。 →課題解決に向けて取り組めるように、幼児への声の掛け方や、動き方等、工夫することができるように助言する。
----------------	---

10	<p>6 活動を振り返り、お礼を伝え、挨拶をする。 (おわりの会)</p>	<p>・園の先生から言葉をいただいたり、幼児、中学生それぞれが感謝の気持ちを伝え合ったりすることで、幼児への理解が深まり、充足感を得られるようにする。(司会やお礼の言葉を述べる生徒も決めておく。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※園の先生や幼児に話をしてもらう場を設ける場合は、事前に園側をお願いしておく。その際、誰がどの場面で、何分話すなど、伝えるようにする。(事前に園側に計画書等、紙面で伝えておくとうい。)</p> <p>※時間に余裕があれば、園の先生方や園児に対して、中学校の教員もお礼を伝える場を設けるとよい。</p> <p>※オンライン切断時には、一言でもお礼を伝え、相手に今から切断をするという旨を伝えてから切断する。</p> </div> <p style="text-align: center;">——— オンラインを切断し、オンライン学習を終了させる ———</p>		
5	<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>・オンラインでの触れ合い活動について、自己の課題をもとに振り返って、評価し合い、次時に生かす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート・行動観察)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>おおむね満足できる状況(B)</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <p>幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善策をワークシートに適切に記入している。</p> <p>→これまでの学びやワークシート内の「実際に関わって気付いたこと」等を参考にして、一連の活動を振り返らせ、幼児との適切な関わりについて改善策を見出せるように促す。</p> </td> </tr> </table> </div>	<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<p>幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善策をワークシートに適切に記入している。</p> <p>→これまでの学びやワークシート内の「実際に関わって気付いたこと」等を参考にして、一連の活動を振り返らせ、幼児との適切な関わりについて改善策を見出せるように促す。</p>
<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<p>幼児との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善策をワークシートに適切に記入している。</p> <p>→これまでの学びやワークシート内の「実際に関わって気付いたこと」等を参考にして、一連の活動を振り返らせ、幼児との適切な関わりについて改善策を見出せるように促す。</p>			

7 学習評価の具体例

<実際に使用したワークシート>

<オンライン学習> 幼児との関わりの工夫

触れ合う園は… [] 園 組 (歳児クラスの園児)

その1 幼児の姿を観察してみよう (映像視聴) (月 日)

[memo] 園での様子はどうかな (メモ)
 身体的特徴・動作や運動機能
 言葉や気持ちの表し方
 子どもの様子
 先生が幼児と関わっている時の様子

わたしは、
 幼児とかかわる時に、
 (どんな感じで)
 関わることができるよ。
 (幼児や自分にどんなことがあるかな)

5 / 9 時間目

私の課題

その2 幼児との触れ合いに向けて (準備をすすめる) (① 月 日) (② 月 日)

自分の班 () 班の計画
 班でやること
 ☆自分の役割☆
 幼児に () のときのポイント

流れ
 スタート
 6・7 / 9 時間目

・生徒記述のワークシート

<オンライン学習> 幼児との関わりの工夫

触れ合う園は… [] 園 すみれ 組 (4 歳児クラスの園児)

その1 幼児の姿を観察してみよう (映像視聴) (9 月 26 日)

[memo] 園での様子はどうかな (メモ)
 身体的特徴・動作や運動機能
 言葉や気持ちの表し方
 子どもの様子
 先生が幼児と関わっている時の様子

わたしは、
 幼児とかかわる時に、
 (どんな感じで)
 オンラインでも、相手に質問したり
 遊びをしたり、一緒に楽しみながら
 幼児の反応を見て
 (に、関わることができるよ、)
 (幼児や自分にどんなことがあるかな)
 活動後、活動中楽しかったことを
 園児たちと遊ぶ中でマメに
 くれるようなことがあると
 思う!

私の課題
 ・説明などに一生懸命になりすぎず、幼児の様子を見ながら接する

その2 幼児との触れ合いに向けて (準備をすすめる) (① 9 月 26 日) (② 10 月 17 日)

自分の班 () 班の計画
 班でやること
 ☆自分の役割☆
 幼児に () のときのポイント

流れ
 スタート
 司会 → ●●● やん
 → 自分
 オニ → ●●● けん
 オニ → ●●● やん
 説明 → ●●● やん
 司会、コメント、あいわ
 → ●●● やん ●●● やん

関わり体験の実施

3年 組 番
 名前

その3 幼児との時間を過ごす (オンライン) (月 日)

実際に観てみたら、さらにいろいろなことが見えてきた

実際に観てみたら、さらにいろいろなことが見えてきた

8 / 9 時間目
 本時

直接幼児と関わる時

その4 幼児との時間を過ごして (準備) (月 日)

「幼児との関わりの工夫」の学習について
 学習前と学習後を比べて分かったこと、感じたことなどを振り返りましょう。

9 / 9 時間目

関わり体験の実施

3年 4 組 3 番
 名前

その3 幼児との時間を過ごす (オンライン) (10 月 25 日)

実際に観てみたら、さらにいろいろなことが見えてきた

実際に観てみたら、さらにいろいろなことが見えてきた

わたしは実際に幼児と、
 (どのように)
 笑顔をたくさん、明るい声かけをするこは
 もちろん、園児に伝わったのか、理解でき
 ているのか、反応を見ながら
 (に、関わってみたら、)
 (どうだったか)

同じ空間にはいなくても、話し方、遊びか
 垂れ耳意識を向けるだけで、園児
 が「オニのパンツ」をするうえで
 モチベーションを保つことができる

その4 幼児との時間を過ごして (準備) (10 月 31 日)

「幼児との関わりの工夫」の学習について
 学習前と学習後を比べて分かったこと、感じたことなどを振り返りましょう。

幼児と関わる時、優しく接することや、笑顔でいること、明るく声かけをすること
 はとても大切だと思う。今回の活動を通して、一番大切だと思ったことは「自らも楽し
 くやる」ということだ。周囲の影響を受けず、自分のペースで、楽しい空間を
 こちら側で作っていくことが良いのだと感じた。

楽しんでもらいたいという前向きな姿勢、自分が「楽しんで」ということを
 意識して生活していきたいと思う。

関わり体験の実施

3年 組 量
名前

その3 幼児との時間を過ごす (オンライン) (月 日)

実際に関わって気付いたこと
身体的特徴・動作や運動機能

言葉や気持ちの表し方

子どもの様子

その他の発見

連絡先と関わる時

その4 幼児との時間を過ごす (体験) (月 日)

「幼児との関わり工夫」の学習について
学習前と学習後を比べて分かったこと、感じたことなどを振り返りましょう。

【思考・判断・表現】
※「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の具体的な事例

わたしは実際に幼児と、 (どのように)
笑顔で接する、明るい声かけをすることはもちろん、園児に伝わったのか、理解できているのか、反応を見ながら (に、関わってみたら、) (どうだった)

同じ空間にはいなくても、話し方、遊び方、動作に意識を向けるだけで、園児が「オニのパンツ」をするうえでモチベーションを保つことができる

活動後の振り返りの記述が客観的で具体的に書かれている。また、新たな発見があり、活動前の記述と比較をしていることから、(B) を上回る (A) と判断した。

【主体的に学習に取り組む態度】
※「十分満足できる」状況 (A) と判断した生徒の具体的な事例

その4 幼児との時間を過ごす (体験) (10月31日)

「幼児との関わり工夫」の学習について
学習前と学習後を比べて分かったこと、感じたことなどを振り返りましょう。

と園児と関わる時、優しく接することや、笑顔でいること、明るく声かけをすることはとても大切だと思う。今回の活動を通して、一番大切だと思ったことは「自分も楽しくいる」ということだ。周囲の影響を受けやすい幼児にとって、楽しい空間をこちら側が作っていくことが良いのだろうと感じた。

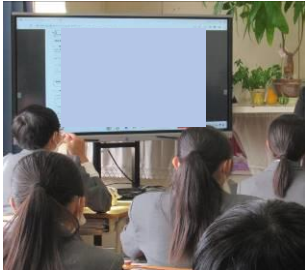
楽しんでもらいたいという前向きは忘れず、自分が「楽しい」ということを意識して生活していきたいと思う。

今後の生活や実践にどのように生かそうとしているか具体的な記述がある。「幼児との関わり工夫」における幼児側の視点も踏まえ、これからの自分の行動についての記述があることから、(B) を上回る (A) と判断した。

8 指導の実際 ※高齢者との関わりについては、事例5-2参照

①オンラインを活用した触れ合い活動において、地域の方と双方向のやり取りを行うことで、自らの課題に対して専門的な内容を見聞きできるようにする。

オンラインを活用して地域の方と触れ合う場を設定することで、学校から出なくてもやり取りが可能となる。教員側の園や施設との事前の十分な打ち合わせも必要となるが、触れ合う活動が制限されていても、幼児や高齢者、地域への関心を高められたり、専門的な内容を知る機会となったりするので、有意義な活動となる。



(幼児との関わり 5/9時間)
幼児の園での様子を視聴した。事前に幼児の様子を知ること
で、生徒たちの幼児に対する関心が高くなった。

(高齢者との関わり 4・5/5本時)
福祉施設の方へのインタビューを、課題が同じ生徒同士の1
グループにつき1施設と双方向で行うことで、インタビュー
内容が精選され、より具体的な回答を得ることができた。



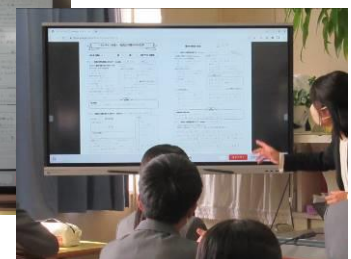
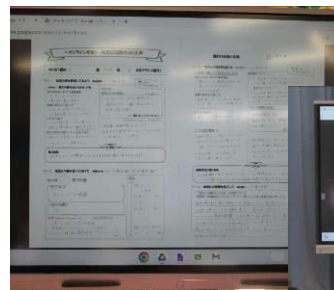
②ゲストティーチャーや地域の人たちとの対話を通じて、それぞれの課題への解決方法を見だし、今後の生き方に生かすことができるようにする。

専門的な話を一方通行で聞くのではなく、やり取りをすることで、自分やグループの課題解決について内容を深めることができる。

また、「幼児との関わりの工夫」での発展的な授業展開（オンライン第2回目が可能な場合）として、その後の活動において、園の先生とオンライン上でつないでインタビューをする活動を行うことも考えられる。幼児との触れ合い活動の後に出てきた課題を解決できたり、園の先生の想いを聞くことにより学びが深まったりする。これが新たな課題解決の場となり、将来に主体的に関わろうとする態度の育成につながっていく。

③ICT端末を用いて、考えを整理して伝え合うことで、即時に多様な意見に触れ、思考力や表現力を培い、多角的な見方・考え方を働かせることができるようにする。

(幼児との関わり 9/9時間) I
CT端末を活用して、レポートを写
真で撮影し、電子黒板に映すこと
で発表をスムーズに行うことが
できた。

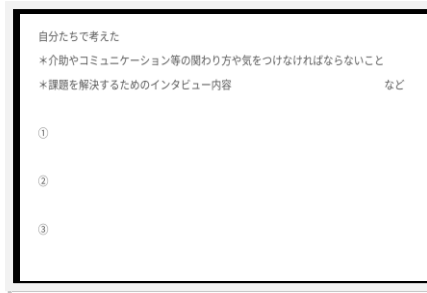


(高齢者との関わり 4/5時間) プレゼンテー
ションソフト (Google スライド、パワーポイント等)
にテンプレートを作っておき、入力、まとめがすぐ
にできるようにしたことで、簡潔にまとめができ、
発表までの流れがスムーズになった。

※テンプレートの例（高齢者との関わり）

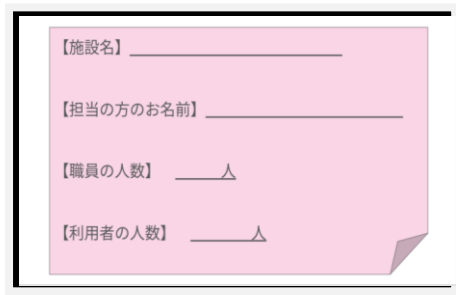


1 枚目

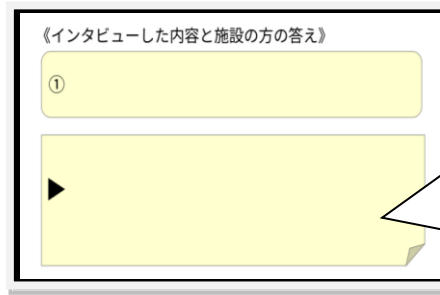


2 枚目

（高齢者との関わり
3 / 5 時間目）
1 枚目、2 枚目については
3 時間目に入力をして
おく。



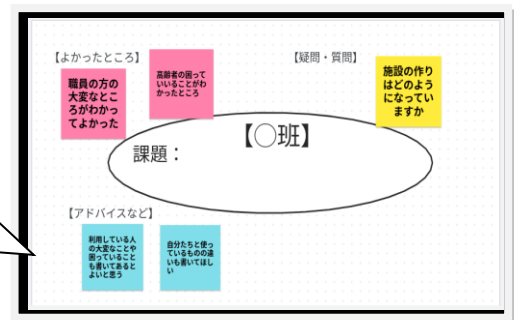
3 枚目



4 枚目

（高齢者との関わり
4 / 5 時間目）
3 枚目以降はインタビ
ュー内容をグループ内
で振り返り、まとめた後
に入力をする。スライド
の枚数は 1 人 1 枚程度
を目安とする。

（高齢者との関わり 4 / 5 時間目）
発表内容を各自で見た後、解決策のよいところ、ア
ドバイス等をホワイトボードソフト（Google ジャム
ボード等）に入力し、その場で意見交換をすること
で、他者の意見にすぐに触れ、自分やグループの考
えを整理することができる。



撮影時の注意事項

- ・園や施設との打ち合わせ時に、映像の取り扱いについて具体的に示し、園や施設から許可をいただく。
- ・撮影をする際は、個人情報に注意して撮影する。
- ・授業でのみ使用し、その後の取り扱いにも注意する。
- ・写真撮影をお願いした場合も、個人が特定されない形で撮影する。また、便り等に掲載する場合、必ず許可を取る。掲載して良いか迷った場合は、こちらで判断することなく、必ず園や施設に確認をとる。

《参考資料》

当日の司会原稿例

〈はじまりの会〉
 司会：こんにちは。
 司会：私たちは、〇〇中学校〇年生です。
 〇〇保育園の〇〇組のみなさんと、会うことができうれしいです。
 今日は一緒に遊びましょう。
 〇〇組のみなさん、よろしくおねがいします。
 生徒：よろしくおねがいします。

〈おわりの会〉
 司会：これからおわりの会を始めます。
 気を付け、礼。
 司会：みなさん、今日はどうでしたか。
 はじめに、〇〇保育園の園児さんからの言葉です。
 (代表の) 園児さん、よろしくおねがいします。
 園児さん：(*園児さんが話す)
 司会：ありがとうございました。
 次に、中学生からの言葉です。〇〇さん、お願いします。
 代表の生徒：(代表の生徒が話す)
 司会：次に〇〇保育園、〇〇先生からのお話です。
 保育園の先生：(保育園の先生が話す)
※これから幼児と関わる時のヒントなどを話していただく
 司会：ありがとうございました。
 司会：今日は、〇〇組のみなさんと楽しい時間を過ごすことができ、嬉しかったです。
 一緒に遊んでくれて、ありがとうございました。
 中学生も園児さんにお礼を言いましょ。
 私が言ったあとに続けて言ってください。
 楽しい時間をありがとうございました。
 生徒：ありがとうございました。
 司会：以上で、「おわりの会」をおわりにします。

依頼文例

〇〇発 第〇〇〇号
令和〇年〇月〇日

〇〇〇〇〇〇園長 様

〇〇〇〇中学校
校長 〇〇〇〇

オンラインによる幼児との触れ合い学習に関する協力について (依頼)

〇〇の候、貴園におかれましてはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
 さて、本校では家庭科の授業において、オンラインを使用した観察や諸活動を通して、幼児への理解や関心を高めるために、「オンラインによる幼児との触れ合い学習」を下記の通り計画いたしました。貴園の御協力をお願い申し上げます。

記

- 1 実習場所 〇〇〇
- 2 実習日 令和〇年〇月〇日 (〇)
- 3 実習時間 〇校時 (〇時〇分～〇時〇分) のうち、
オンライン接続時間は、〇時頃～〇時〇分頃まで。(約〇分間)
- 4 実習者 〇〇中学校〇年〇組 (約〇〇名)
- 5 連絡先 〇〇中学校
〒〇〇〇-〇〇〇〇
(～住所を記す～)
☎〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
担当教諭 (家庭科) (～担当者名を記す～)

訪問先とのやり取りの流れ <例> ※高齢者施設も同じ

	時期	方法	内 容
①	前年度	(校内にて)	実施時期や内容等を検討して、年間指導計画に記すとともに、管理職に相談する。
②	年度初め	(校内にて)	ねらいや内容などから、お世話になる園や施設を決め、内容や具体的な日程等について、管理職に相談する。 (地域とのつながりの観点から学校に近い園や施設が望ましい。)
③	年度初め	電話	授業に協力いただけるか、電話にて協力依頼をする。 (内容や実施方法等を伝えて検討していただく。)
④	③の後すぐ	訪問	依頼文を持参する。 タイムテーブルや内容等の詳しい説明をする。 (場合によっては、管理職も同行し、挨拶に伺う。)
⑤	実施1～2ヶ月前	(校内にて)	校内組織委員会(運営委員会、企画委員会等)、職員会議で計画案を提案する。 該当学年職員との打ち合わせをする。(時間割変更・当日の学年職員の役割等)
⑥	実施1ヶ月ほど前	訪問	再度タイムテーブルや内容・方法等、詳しい流れを伝える。
⑦	前日	電話	確認の電話をかける。
— オンライン授業の実施 —			
⑧	実施後 (当日が望ましい)	電話	お礼の電話を入れる。
⑨	1ヶ月以内	訪問	お礼の手紙等を届ける。

事例5-2 学習過程での効果的なICTの活用を通して高齢者への関心を高める事例

1 題材名 「絆を深めよう 家族と地域」 内容A(3) ア(イ) イ 高齢者との関わり方

2～4 略

5 題材の指導と評価の計画（5時間扱い）

小題材	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活と地域との関わり	1	○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解することができる。 ・学校周辺の地図や、学校・最寄り駅周辺を撮影したビデオを視聴したり、地域の行事を振り返ったりして、家庭生活と地域との関わりについて話し合う。	①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることを理解している。 ・ワークシート ・定期テスト		
高齢者との関わり方の工夫	2・3	○高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解することができる。 ・高齢者体験を通して、高齢者の身体的特徴を理解する。 ・高齢者体験をすることで高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だし、課題を設定する。 ・同じ課題をもつ者同士でグループを作り、介助やコミュニケーション等の関わり方、地域の人と協働する方法について解決策を話し合い、まとめる。	②高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。 ・ワークシート ・定期テスト	①高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見だし、課題を設定している。 ・ワークシート ・行動観察 ②高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え、工夫している。 ・ワークシート ・行動観察	①高齢者など地域の人々との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・ポートフォリオ ・行動観察 ②高齢者など地域の人々との関わりについて

編 P 126 指導
計画作成の留意事項(4)

地域に暮らす人々との協働を目指して	4	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者との関わりを考える。 ・複数（グループの数）の高齢者施設とオンラインでつなぎ、介助やコミュニケーション等の関わり方について職員の方にインタビューをする。 ・インタビューを元に、関わり方についての改善点をまとめる。 ・まとめたものを互いに発表し、アドバイスをし合う。 ・他の生徒からのアドバイスを踏まえ、関わり方についてまとめたものを評価し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・ワークシート ・行動観察 	<p>での課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ・行動観察
	5			

編 P 126 指導計画作成の留意事項(8)

6 本時の学習指導（本時 4・5／5）

(1) 目標

- ・高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について、実践を評価したり、改善したりする。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・高齢者や地域の人々との関わりについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現する。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・高齢者など地域の人々との関わりについて、工夫し創造し、実践しようとしている。〈学びに向かう力。人間性等〉

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・）評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
2	1 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	・前時の高齢者体験の振り返りや課題の確認をする。

	<p>バイス等を元にしてまとめたものを評価したり、改善したりして、グループで交流し、代表者が全体で発表する。</p>	<p>て改善点や生かせそうなことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には、高齢者を含め多くの方が暮らしていることを確認する。 ・地域の方と協力・協働する視点からも考えられるようにする。 <p>◇高齢者や地域の人々との関わりについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 【思考・判断・表現】(ワークシート・行動観察)</p> <table border="1" data-bbox="531 421 1410 539"> <tr> <td data-bbox="531 421 756 539">おおむね満足できる状況 (B)</td> <td data-bbox="756 421 1410 539">高齢者体験やインタビューを参考に、関わり方について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビューを振り返らせる。</td> </tr> </table> <p>◇高齢者など地域の人々との関わり、協働する方法について、評価したり、改善したりしている。 【思考・判断・表現】(ワークシート・行動観察)</p> <table border="1" data-bbox="531 719 1410 920"> <tr> <td data-bbox="531 719 756 920">おおむね満足できる状況 (B)</td> <td data-bbox="756 719 1410 920">他の生徒からの意見やアドバイスを参考にして、改善策を適切に記入している。 →他の生徒からの意見やアドバイスを参考にするよう促したり、自分ができそうなことを考えさせたりする。</td> </tr> </table>	おおむね満足できる状況 (B)	高齢者体験やインタビューを参考に、関わり方について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビューを振り返らせる。	おおむね満足できる状況 (B)	他の生徒からの意見やアドバイスを参考にして、改善策を適切に記入している。 →他の生徒からの意見やアドバイスを参考にするよう促したり、自分ができそうなことを考えさせたりする。
おおむね満足できる状況 (B)	高齢者体験やインタビューを参考に、関わり方について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビューを振り返らせる。					
おおむね満足できる状況 (B)	他の生徒からの意見やアドバイスを参考にして、改善策を適切に記入している。 →他の生徒からの意見やアドバイスを参考にするよう促したり、自分ができそうなことを考えさせたりする。					
10	6 施設の方の感想や話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他の生徒の気付きを比較し、よいところやアドバイスを考えられるようにする。 ・施設の方にも発表を聞いてもらう。 <p>事例のポイント① 双方向によるオンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の方には、中学生だからできる関わり方についてのアドバイスをいただく。 ・施設の方の感想やアドバイスを踏まえて、まとめたものを振り返らせる。 <p>事例のポイント③ 施設の方に発表内容も含めた感想やアドバイスをいただくことで、自分たちのまとめたものの改善や地域との関わり方をより具体的に知ることになり、この後のまとめにつながるようにする。</p>				
10	7 家族や地域の人々との関わりについて自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、これまでの学習内容を生かしてどんなことができるか考えさせる。 <p>◇高齢者など地域の人々との関わりについて、工夫し創造し、実践しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】(ポートフォリオ・行動観察)</p> <table border="1" data-bbox="531 1727 1410 1966"> <tr> <td data-bbox="531 1727 756 1966">おおむね満足できる状況 (B)</td> <td data-bbox="756 1727 1410 1966">高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方のアドバイスを参考にして、これからの実践について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方の話を参考にするよう促したり、改善点を振り返らせたりする。</td> </tr> </table>	おおむね満足できる状況 (B)	高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方のアドバイスを参考にして、これからの実践について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方の話を参考にするよう促したり、改善点を振り返らせたりする。		
おおむね満足できる状況 (B)	高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方のアドバイスを参考にして、これからの実践について具体的に記述している。 →高齢者体験やインタビュー、福祉施設の方の話を参考にするよう促したり、改善点を振り返らせたりする。					
5	8 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践への意欲へつなげるようにする。 				